

## 農業団体の育成

渡 部 繁 雄



(鹿角郡八幡平村)

渡辺氏は、大正三年曙村助役に就任以来後に村長、郡会議員として通算二十三年余村政発展に尽すと共にその間特に農業生産と農民經濟の発展に意をつくし大正三年産業組合を設立、昭和十二年には鹿角郡農村工業販売利用組合連合会を設立、その他各種農業団体の要職を占め、三十一年余これが育成指導に尽力してきた。

この他、農村保健衛生施設の充実のため、昭和九年花輪組合病院を設立又農村副業の発展のため養蚕を奨励大日本蚕糸会特別会員等養蚕団体の役職にあつて指導に努めてきた。このように氏が堅実なる農業の発展に寄与した功績は顯著なものがある。

## 特　殊　教　育　の　進　展

富

永

(秋

達

田

市)

三



富永氏は、昭和六年以来昭和二十七年まで二十一年間県立千秋学園長として勤務、教護院の經營に当つた。

特に戦事中及び戦後の物資不足、社会の混乱時代に於ける学園經營は非常な難事業にもかゝわらず、よく苦難を克服、崇高なる教育愛と秀れた教護技術により多年非行少年の教化指導に当たり教護院の使命達成に尽力したことは本県特殊教育進展上その功績はまことに顯著なものがある。

# 地 方 自 治 の 振 興

佐々木孝一郎

(由利郡西目村)



佐々木氏は、明治四十二年、二十二歳の若さをもつて西目村助役となり、村治上の三大方針として村有林野の合理的經營、土地改良事業の推進、教育の充実を挙げ、着々その実行に邁進した。

即ち当時飛砂は田畠宅地にまで侵入し、農作物に甚大な被害を与えていた現状を見て、まず海岸砂地造林事業に着手し、あらゆる困難と闘いながらこれを完成、また西目川の氾濫による農産物の被害を防除するため植林を実施して治山治水の確立を図り、その効果は大いに挙つた。

大正五年耕地整理組合を設立し農業用水の確保を図る一方西目川の改修を実施し、今日の美田の基礎を確立した。

氏はまた村造りの中堅となる青少年の教育のため農業学校の必要を痛感し多年これが実現のため努力し、西目農業学校の設立されるところとなり、農村青年の向学心培養に資するところが大きい。

氏が西目村長、県会議員等を歴任し、地方自治の振興に尽した功績はまことに顯著である。

# 郷土民謡の高揚



畠山 浩蔵  
(秋田市)

畠山氏は、十四才にしてみん笛を始め、十七才のときから尺八に転換その後独力で研究精進し現在に至るまで、五十年の間尺八一すじに生き抜いてきた。

昭和七年秋田放送局開局と同時に民謡の伴奏者として迎えられ氏の尺八に対する熱意はますく旺盛となり常に寸暇を惜しんで練習に励むかたわら指導も行つてきた。

また、一九三一年からはNHKのど自慢の専属伴奏者として活躍をつゞけると共に、県内外の各種大会などに出場すること數十回に及び、この間三十年、三十二年、三十三年には秋田県代表者をして堂々民謡日本一の栄冠を得たのを初め、数々の大会にも入賞の栄誉を獲得する原動力として貢献し、民謡秋田の名を一躍全国に高めたのは同氏の力によるところが大きく、その功績は誠に著しいものがある。



# 体 育 の 振 興

須 藤 直 吉

(本 莊 市)

須藤氏は、大正十三年本荘中学校教諭となり、伝統ある同校ボート部長に就任した。丁度同年より明治神宮大会に中等学校ボートレースが加えられたが、氏はこの大会での優勝をめざしてボート部の指導育成に尽力した。苦行八年昭和七年に到り松島湾において初めて全日本制覇をなし、更に翌八年墨田堤においても連続制覇の偉業を成し遂げたことは、氏の努力と綿密周到なる計画指導によるものとして賞すべきである。その後昭和九年まで銳意これが育成に努め、現在なお秋田県漕艇会長として普及発展にあたつてゐるが、今日、本荘高校が、全国優勝十回を数え、全国高校ボート界の名門として名声を得てゐることは、創立時における氏の尽力の賜であり秋田県体育界に貢献した功績はまことに大きい。

# 勤労者の模範

石上石五郎

(湯沢市)



石上氏は、大正七年秋田木工株式会社に一職工として入社し以来今日まで四十年間の永きに亘り終始一貫困難なる曲木技術の開拓に献身してきた。

特に主原料の原木材出については卓越した知識をもち、又工場主任となつてからはよく職長以下の従業員を掌握指導し、自ら機械の改良研究に当り、秋田県木工殊に曲木木工の優秀性を県内外に知らしめた。

氏が四十年間嘗々として、勤労に精励し、産業の振興に尽した功績は勤労者の模範とするに足るものである。